

／建物の安全点検をもっと身近に／

建築安全カレンダー 「まいにち 建築防災」

組立キット

卓上型
万年式

→ 切り取り線



建築物の安心安全のためには、建築物に係る様々な課題を「自分ごと」として身近に考え、改善のための行動をとっていただくことが大切です。

そこで、この度、市民のみなさまや建物所有者、設計者の方が、日頃からこれらの課題に気づき、改善に取り組んでいただくきっかけとなるよう、建築物の防災や建築基準法等の法令・制度に関する標語を記載した『建築安

全カレンダー「まいにち 建築防災」を作成しましたので、職場や御自宅で、是非、御活用ください。

※カレンダーは、組立式です。

※建築安全推進課ホームページからダウンロードすることもできます。

二次元コード読み取りはこちら→



●発行

京都市都市計画局建築指導部建築安全推進課
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
TEL:075-222-3613 FAX:075-212-3657



この印刷物が不要になれば、
「雑がみ」として古紙回収等へ!



京都市印刷物 第033251号 令和4年3月発行

↑ 山折り

ターゲット

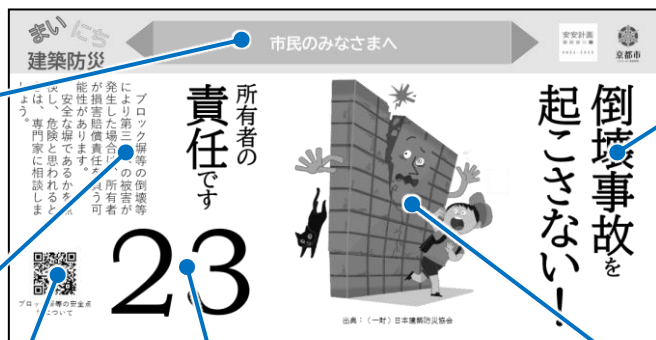
標語を届けたい方を明確にするために「市民のみなさまへ」「建物所有者・管理者のみなさまへ」「設計者・施工者のみなさまへ」の3つを記載しています。

解説

標語と写真・イラストの解説を記載しています。

二次元コード

もっと詳しく知りたい！という方に向けて、関連ホームページの二次元コードを記載しています。



標語

建築に係る防災、違反防止、維持管理、耐震等について、市民・事業者のみなさまに「気付き」を持っていただけるよう、標語を記載しています。

毎日めくってね！



日めくり式カレンダーの特徴

1～31日の日付を記載しており、毎月繰り返し使用することができます。（曜日・年月は、記載していません。）

写真・イラスト

標語の理解・「気付き」の助けになるよう、それらの関連する写真・イラストを記載しています。

↑ 山折り

↓ 山折り

京都市では、平成22年3月に策定した「京都市建築物安心安全実施計画」(以下「第1期計画」という。)に基づき、新築建築物と既存建築物の双方の安全対策に係る取組を、建築物の生産流通から維持管理に関わる事業者や関係団体と連携しながら、着実に進めてきました。

令和3年3月には、第1期計画を発展的に継承し、「誰一人取り残さない」ことを理念とするSDGsや危機にしっかりと対応するレジリエンスといった施策横断的な視点を追加した、第2期目の計画となる「京都市建築物安心安全実施計画」を策定し、市民・事業者・行政・関係団体等が協力・連携して、総合的に、計画的に建築物の安全の確保と質の向上に向けた取組を推進し、もって「歴史都市・京都ならではの、しなやかに強く持続可能なまち」の実現を目指しています。



京都市建築物 安心安全実施計画

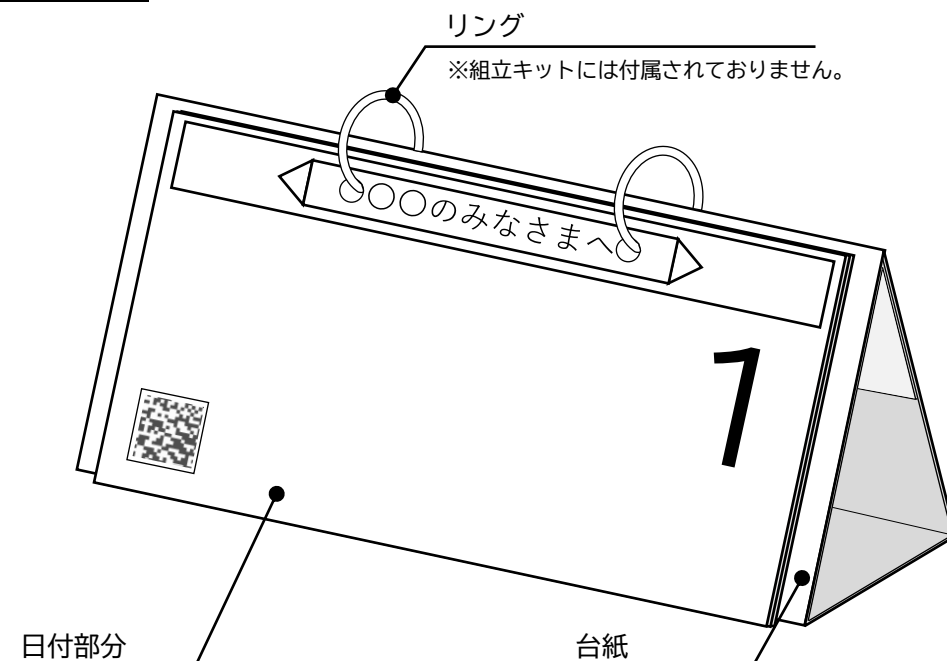
市民・事業者・行政・関係団体等の共通の指針

の実現を目指して

「しなやかに強く持続可能なまち」

「歴史都市・京都ならではの、

○ 完成イメージ



○ セット内容 ※作り方は、裏面を御覧ください。

1 枚目



・台紙

2 枚目



・説明書
・日付部分（表紙，31日）

3～7 枚目



・日付部分（1～30日）
※両面印刷です。

表紙



○ 作り方

必要なもの



超簡単！
みんなも作っ
てみよう！

はさみ



のり



穴あけパンチ



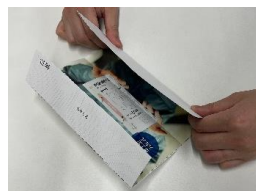
リング ・ 結束バンドなど
(内径20mm程度)

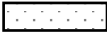


① カレンダー用紙を切り取り線 ----- に沿ってはさみで切ります。



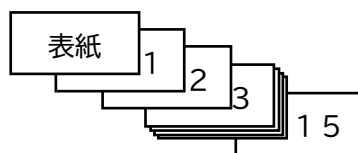
② 台紙を山折り線 - - - - - に沿って折ります。



③ ②の  部分をのりづけし、台紙を作ります。



④ 表紙・暦部分(1~15日)を順番に並べます。



⑤ ③と④の三角のマークを穴あけパンチの中心に合わせて穴をあけます。



⑥ ⑤であけた穴にリング・結束バンドなどを通して完成です。



まいにち
建築防災

市民のみなさまへ

安安計画
2021-2025



あなたの
大切な人にも
教えてあげてください



気付き
がありましたか？
今月はいくつの

31

建築基準法

ご存知ですか？

1

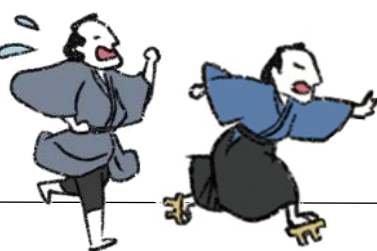


おうちを**安全に**
建てるための法律です

建築基準法は、国民の生命・健康・財産を守るため、地震や火災などに対する建物の安全性や、敷地、周囲の環境などに関して必要な基準が定められています。

火災時に

2



逃げられる
階段ですか？



緊急点検のお願い

廊下や階段、バルコニー、屋外通路等の避難経路に物品や可燃物を放置することは、避難の妨げや火災拡大の原因につながり、所有者等の管理責任が問われます。
建物利用者の安全確保のため、適切な維持管理を行います。

3

京町家も

増築・改修

できます

良さを活かしながら

「京都市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例」により、耐震性や防災性を向上させながら、京町家を活用することができます。



歴史的建築物の
保存活用とは

30

建築士は、国家資格を持つ、建築のプロフェッショナルです。建物の設計・工事監理のほか、建物を適切に維持していくための知識も豊富です。建物のことでお困りのことがあれば、信頼できる専門家（建築士）に相談しましょう。



大切な資産は
プロに相談

29

避難経路を確保しましょう



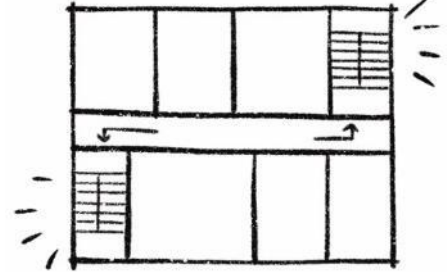
命を守る建物にする心得集



普段から利用する階段や廊下をメインの避難経路に設定する。



建物を利用する人数に応じた避難経路を確保する。



階段は建物内の離れた位置に2つ以上設け、逃げられる経路を複数確保する。

近年、台風や局所的な集中豪雨により、地下空間への浸水被害が増えています。水がいったん流入すると、急激に水位が上がり、避難が困難になります。地下空間への入口に「土のう」や「止水板」を設置するなど、浸水対策を実施しましょう。



28

浸水対策は
できていますか？



地下空間の



建築物の事件・事故対策

台風などの強風により、住宅の瓦がずれる・落ちるなどの大きな被害が発生しています。これらの被害を防ぐため、令和4年1月から、瓦屋根の緊結方法に関する基準が強化されました。屋根の状況について、お近くの瓦工業者に相談しましょう。



建築物の強風対策
(国土交通省)

4



おうちの屋根瓦は
固定されていますか？

火災時には、避難経路まで煙が広がらないよう、逃げる時間を確保することが大切です。防火戸が正しく作動するように、戸の周囲への物の放置や、ドアストッパーの使用はやめましょう。



緊急点検のお願い

肝心な時に閉まってこそ
防火戸です

5



ドアストッパーで
防火戸を止めないで

建築基準法には、安全な建物を建てるための様々な基準が定められています。検査済証は、適法な建物であることを示す大切な証明書です。建物を売買するときは、検査済証を確認し、適法に建てられていることを確認しましょう。



はありますか？

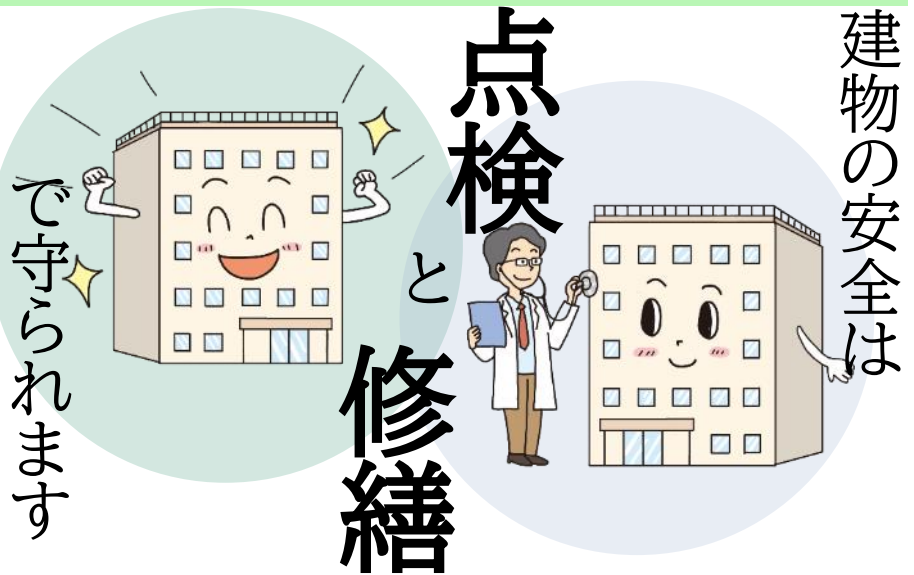
検査済証

あなたのおうちに



6

建物の劣化や不具合が早期に発見できれば、比較的少ない費用で、良好な状態を維持することが出来ます。
建築基準法により義務付けられている定期報告（建築物や建築設備等の定期的な調査・点検）の結果を基に、計画的な修繕をお勧めします。



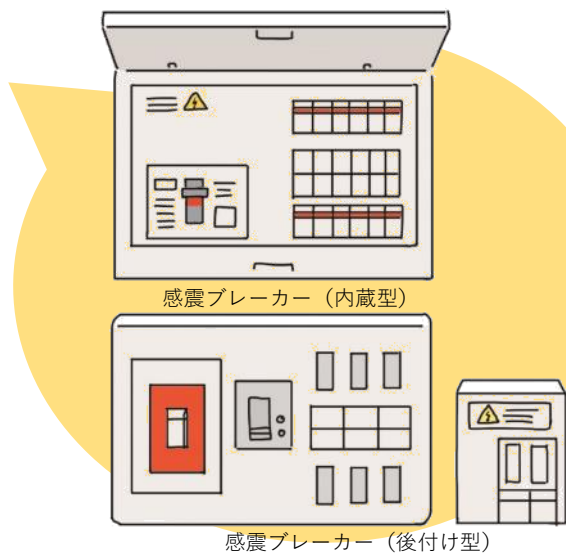
27



定期報告制度

地震による停電が復旧したときに、電化製品に接触している物から出火する場合があります（通電火災）。
避難するときは、必ずブレーカーを「切」にしてから家を出しましょう。
感震ブレーカーは、地震の揺れを感知すると自動的に電気を止めるので、通電火災の防止に有効です。

感震ブレーカーで
火事防止



地震の後も要注意

26



あんあん通信VOL.7

京都市では、建築基準法第12条に基づく定期報告の締切を、毎年12月25日としています。
毎月25日は、定期報告のことを思い出し、報告を忘れないようにしましょう。



毎月
25日は
定期報告の日

25



定期報告制度

もらい火を

もらわない



7



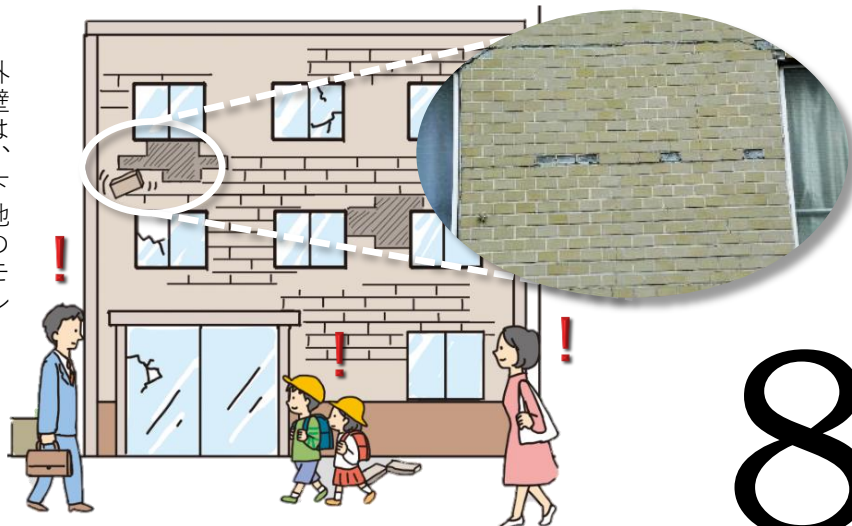
あんあん通信VOL.7

隣家からの「もらい火」の場合、火元の所有者等に故意または重大な過失がない限り、損害賠償を請求できないとされています。「もらい火」による被害を防ぐためには、外壁や開口部、軒裏の防火性能を高めることが重要です。建物の防火改修を検討しましょう。

外壁は

劣化により落下します

8



外壁は、下地のモルタルや接着剤の経年劣化により、浮きや剥がれが生じ、落下する場合があります。落下物による事故防止のため、適切な維持管理が必要です。



建築物の事件・事故対策

違反建築物の 是正は

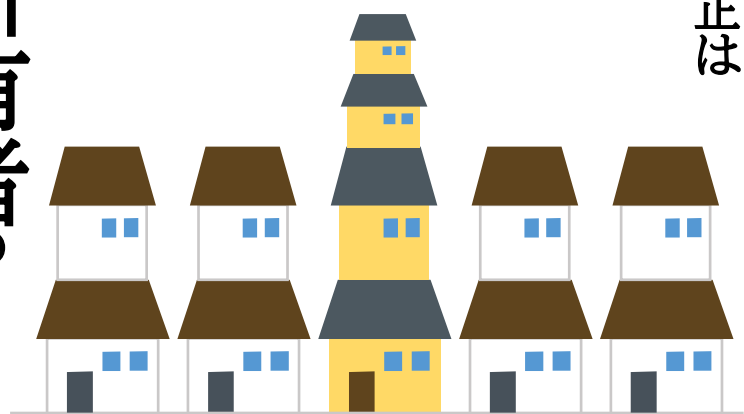
所有者の 責任です。

9

違反建築物と知らずに取得した場合でも、新たな所有者が違反を是正する必要がある場合があります。建物を取得するとき、検査済証を確認し、適法に建てられていることを確認しましょう。



違反建築物の注意点

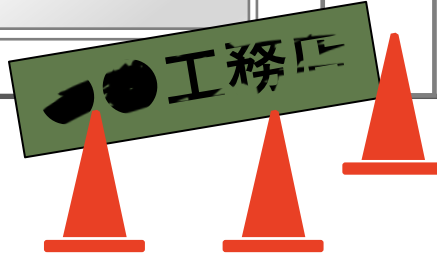


建築物の外壁に取り付けられている看板（広告物）や設備機器類等は、時間の経過により、その本体や取付け部分が劣化（錆や腐食）します。
点検・補修を行わずに放置していると、強風や地震時に落下する可能性があります。
定期的な点検・補修を行うなど、適切な維持管理が必要です。



建築物の事件・事故対策

24



看板が落下して
目立つのは
本末転倒

ブロック塀等の倒壊等により第三者への被害が発生した場合は、所有者が損害賠償責任を負う可能性があります。
安全な塀であるかを点検し、危険と思われるときは、専門家に相談しましょう。



ブロック塀等の安全点検について

23



出典：（一財）日本建築防災協会

倒壊事故を
起こさない！

停電が発生した際、非常用照明が点灯することで、室内や避難経路を照らし、安全に避難できるようにします。
建物利用者の安全確保のため、定期的に点検し、点灯することを確認しましょう。



緊急点検のお願い

22

非常用照明は
点灯
しますか？



点灯するか
点検します

災害時に

京都市では、地域が主体となった自主的な建物の維持・管理により、建物の安全性が高められ、ひとのいのちが守られてきました。
また、かつては各家に出入りの大工による、定期的な建物の維持・管理のもと、町並み景観や風情といった都市の価値を生み出すまちのいのちが守られました。
今日においても、市民・技術者のみなさまの繋がりのもと、建物の耐震化を進めていくことで、ひととまちのいのちが守られています。

耐震化です



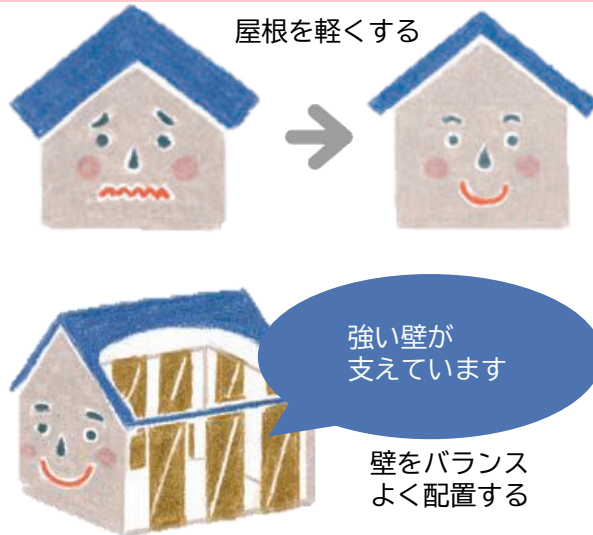
京都の
ひととまちの

10



京都市の耐震化の取組

重い屋根であるほど、地震の力は家に大きく作用します。軽い屋根材とすることで、家にかかる負担を小さくできます。
また、柱と柱の間に斜めに筋かいを入れたり、構造用合板を使って地震に強い壁を増やすことで、地震時に起きる家のゆがみを、抑えることができます。



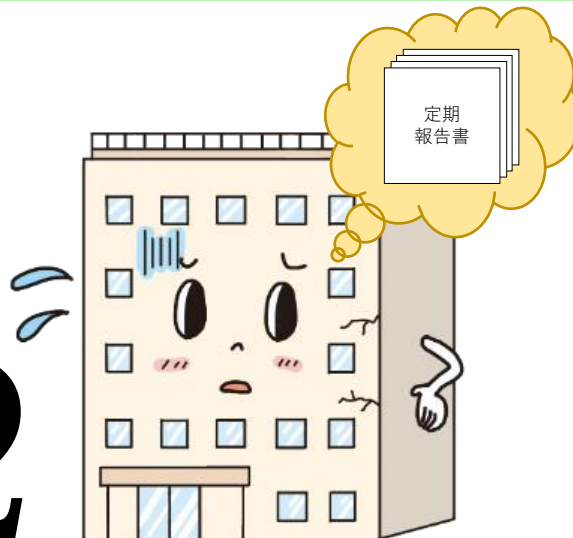
何を
耐震化
するの？
って

11



耐震化普及啓発
パンフレット

建築基準法第12条では、多数の方が利用する建築物の事故を防ぎ、建築物を安心して使い続けるために、専門技術者による建築物や建築設備等の定期的な調査・点検と、点検結果の特定行政庁（京都市長）への報告（定期報告）が義務付けられています。
定期的な調査・点検は、万が一のときに人命を救い、被害を最小限に抑えることに繋がります。
所有又は管理する建築物が報告対象か確認しましょう。



その建物
定期報告の
対象
ですよ？

12



定期報告の対象建築物

アスベスト繊維を吸引することによって、石綿肺（じん肺の一種）、肺がん、悪性中皮腫などの疾患を発症する可能性があります。

天井裏にある綿状の吹付け建材は、アスベストの可能性があります。専門家に相談し、調査しましょう。

アスベストの含有が判明したら、すぐに除去しましょう。



建築物のアスベストについて

21 アスベスト 意外と身近

なとこころにあります



点検口から
見ています

20

京都府建築工業協同組合と京都市が共同で、京町家の意匠に合い、火災にも強い「木製防火雨戸」を開発しました。そして「20分間防火設備」として大臣認定を取得したことで、より、既存建具を活かした京町家の防火改修や、新築建物への使用が可能となりました。



木製防火雨戸

製作可能に
なりました！



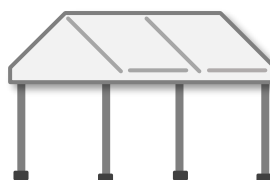
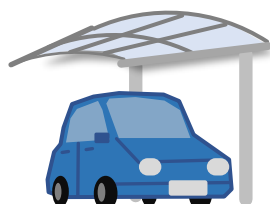
防火戸は
木製でも

問題

19

Q1 次のうち、建築物はどれでしょう。

1 カーポート 2 犬小屋 3 運動会用のテント

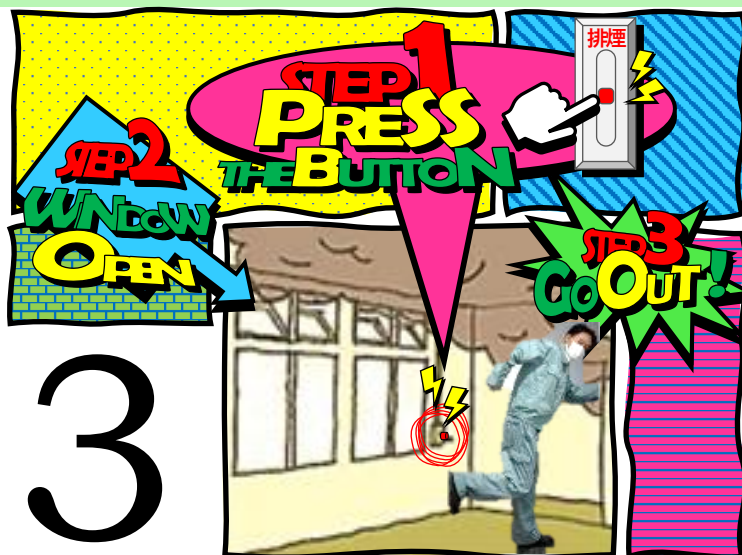


建築物を建てる時は、事前に専門家に相談しましょう。



違反建築物の注意点

火災が発生したときは、すぐに窓を開けて、煙を屋外に出すと、安全に避難できます。「窓の開閉ボタン」が正常に作動するか、定期的に確認しましょう。
また、家具等で窓を塞がないようにしましょう。



ボタンを押して
煙を逃がして
逃げましょう



緊急点検のお願い

13

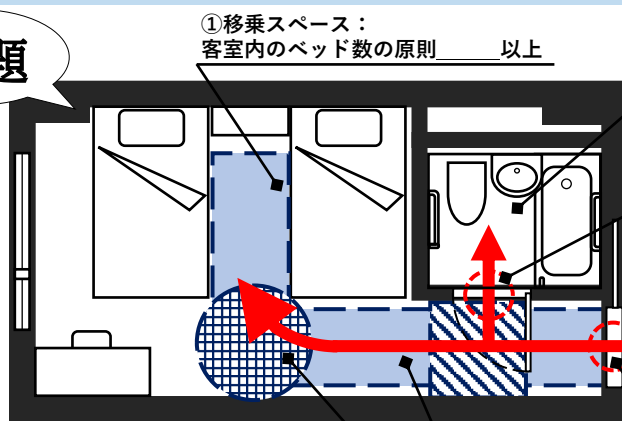
みんなが利用できる
ホテルへ
バリアフリー条例を
改正しました



京都市建築物等の
バリアフリーの促進に
関する条例

14

問題



⑥車椅子の方向転換スペース：
cm以上

⑤通路：幅 cm以上、段差 あり・なし

②手すりを 適切に設置し、車椅子が寄り付ける 確保

③便所・浴室の出入り口：
幅 cm以上
段差 あり・なし

④建物出入口から客室出入口
までの幅：
通路 cm以上
出入口 cm以上

【こたえ】①1/2 ②便所・浴室・空間 ③75・なし ④120・80 ⑤100・なし ⑥120

建設リサイクル法の届出では、窓口でお待ちたせることのない、簡単で便利な電子申請を始めています。
今まで書類の印刷や提出に要していた時間や手間がなくなり、また、その他の建築関係手続についても、市民・事業者のみなさまの利便性向上のため、電子化を推進していきます。

電子申請を
始めています



建設リサイクル法に係る電子申請

15

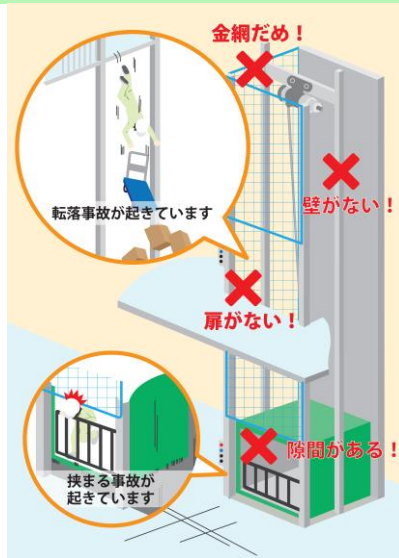
工場等に設置されているリフト（エレベーター）には、労働安全衛生法と建築基準法に設置基準が定められています。法令に適合していないものは、転落や挟まり事故等の人身事故が発生する可能性があります。大変危険です。

従業員等の安全のため、適合するものに取り換えましょう。



簡易リフト等に係る建築基準法の手続きについて

18



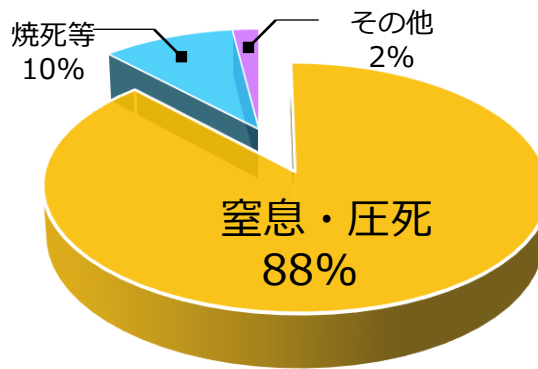
工場のリフトで
転落事故や
挟まり事故
が起きています

平成7（1995）年1月17日に発生した阪神・淡路大震災における死亡原因の約9割が、建物や家具の倒壊による「窒息・圧死」でした。地震から命を守るには、建物等の倒壊を防ぐことが何よりも大切です。建物の耐震化を始める第一歩として、耐震診断を行いましょう。



京都市の耐震化の取組

17



【阪神・淡路大震災の被災直後の死亡者の死因】
（平成7年/警察白書より）

あなたの
おうちやオフィスは
地震に自信が
ありますか？

普段は広い空間も、火災時は煙の広がりを防ぐために、シャッターが閉まります。シャッターが閉まっても、横の扉（くぐり戸）から避難できます。いつも行くあのお店「くぐり戸」を見つけてみましょう。



建築物の事件・事故対策

16



シャッターが閉まったら
くぐり戸から
脱出